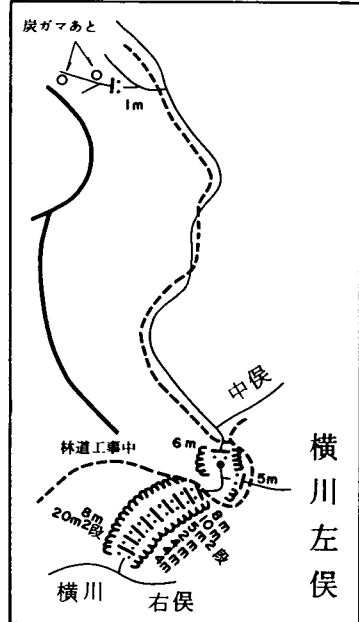


小滝をいくつか越えて、八びの滝。これはちよつと下

れない。左岸を捲く。その下の二〇び二段の滝も左岸を捲く。登ることはできるかもしれない。

ゴルジュ帯はこれで終了。すぐ右俣が合流する。(記・

「タイム」 下降開始(一〇:四〇)↓



横川左俣

左俣本流(一一:一〇)↓中俣出合(一一:二五)↓右俣出合(一三:〇〇)

山葵沢

L 丑

一九八二年八月一日

林道工事のため、出合は様相が一変していた。崩された土砂が沢を埋めてしまっている。何と雑な林道の

造り方であろうか。緑の番人を自認する営林署であるが、我々の目から見れば、緑の破壊者の一人である。

山で出会った動物たち①

ニホンカモシカ

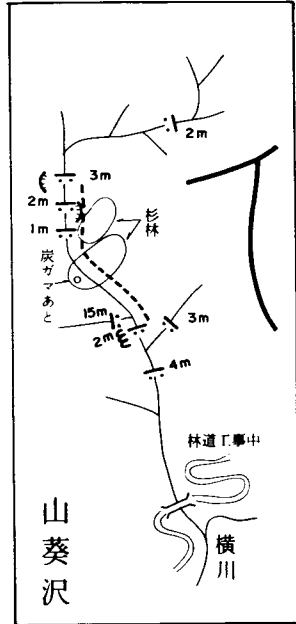
深山幽谷のイメージがつきまとうニホンカモシカ。褶上川流域には多数生息している。それだけ自然が残っていることの証明だろうか。

この地域のどこを歩いていても見かけるし、時には、集落のすぐそばまで出てくる。こちらの姿に気づくと、ちよつと立ち止まり、こころもち首を curve、愛くるしい瞳でじつと見つめる。沢筋は通り道としてよく利用されているのか、沢登りをやっている、三回に一回程度の割合で見かけた。

(西)

沢に入ったとたんにアブの襲撃。数十匹のアブが群がってきて、服の上からでも平気で血を吸いにかかると、五〇匹ほど殺したら、ようやく静かになった。

平凡な沢である。四〇坪の滝が出てきた時には、これならと期待させたのだが、あとが続かない。ダラダラ



と登り、いつのまにか源頭の湿原についていた。(記)

「タイム」 出合(八二五) ↓ 終了(九二五)

上

一九八五年九月二四日

菱川

一三号国道より分かれて、菱川ぞいの林道に車を乗りいれる。左に林道が分かれる所にデボ。この沢は、

道路と並行している沢なので、最初から期待はなし。もくもくと歩くのみである。それでも、一ノ二坪の小

滝がポツリポツリと出てくる。

沢に入って二〇分、道路が二俣になる。左に行くと、大平部落への道路となる。この先すぐに治山ダムがある。治山ダムとしては、長い堰堤である。すぐ脇で、釣糸をたらしめている人がいた。

まもなく沢は二俣となる。右がケヤキ沢、左が菱川本流である。いったんケヤキ沢の調査に入り、戻ってからまた菱川本流の遡行を続ける。橋が多く、左にいたり右にいたり。記録が大変である。終了地点は、スギの造林地で、丘陵という感じであった。(記)

「タイム」 遡行開始(二三二五五) ↓

ケヤキ沢橋(二四二〇) ↓ ケヤキ

沢橋(二四二五五) ↓ 菱川終了(二五二〇)

五二〇